PHiL
SATO VAC INC.

知的資産経営報告書
2012

“クリーンな真空を生む技術力”

「PHIL」が求めつづけているもの…それは「究極のクオリティ」です。

佐藤真空株式会社

PHiL

目　　次

ページ

１．経営者からのご挨拶　２

２．経営理念　４

３．事業概要　６

４．当社を支える知的資産　８
（１）８０余年の歴史
（２）“モノづくり”へのこだわり
（３）全国展開の販売ネットワーク
（４）“ユーザー様のため”をモットーとした提案力
（５）オーダーメイド設計を低価格で提供できる製品力
（６）７０％を超すリピート率
（７）商標登録（PHIL にこめた思い）

５．今後の事業戦略　１３
（１）研究開発分野を深堀
（２）グローバル市場への展開
（３）ソリューションビジネスの展開

６．情報発信の取り組み　１４
（１）「真空ベーシックガイド」の制作
（２）国内外の展示会への継続的出展
（３）お客様視点に立ったホームページの制作
（４）その他の情報提供の取り組み

７．会社概要・沿革　１６

８．あとがき、問い合わせ先　１７

第１章　経営者からのご挨拶

HISTORY

技術への想いを、未来へ。

社長であった父が亡くなった大学 3 年生の冬。私の目の前に、「会社を継ぐ」という道が現れました。今後の人生を大きく左右する分かれ道。しかし、それにも関わらず、「継ぐ」という決断を下すまで、時間はかかりませんでした。築いてきた風土や信頼、佐藤真空の歴史を支え続けてくれた人たちを、これからも変わらず守り抜く。使命感にも似た強い感情に突き動かされた私は、その冬、佐藤真空の歴史を紡いで行く覚悟を揺るぎないものにしたのです。子どもの頃、工場のすぐそばには従業員の寮があり、私は、働く大人たちの笑顔に囲まれながら幼少期を過ごしました。従業員は、私を弟のようにかわいがってくれ、私は、その人たちを兄のように慕う日々。創業者である祖父は、従業員の幸せを最優先する人間で、「うちの建て替えは、従業員が家を建てた後」と口癖のように話していました。創業から 80 年以上、一度も赤字を出すことなく今日まで来ることができた要因の中には、真空という先端技術に、早い時期から目をつけた先見性もあると思います。しかし、決して、それだけではありません。人を想い、人を守る経営姿勢を貫いてきたからこそ、従業員一人ひとりの技術への想いも強くなり、佐藤真空は成長を遂げることができたのです。未来へと続く成長の歩みを途絶えさせるわけにはいけないと、私が佐藤真空に入社してから約 30 年。今なお、その歩みは力強く、従業員と共に未来へと向かっています。

POLICY

行動力で、信頼を勝ち取る。技術力で、心を沸かせる。

私たちは、完成するその瞬間まで、品質を追求し続けます。国内自社工場での製造を徹底しているのも、自分たちの目と手で創り上げなければ、究極の品質というものは生み出せないと信じているからです。そしてまた、私たちは、全ての仕事においてスピードを重視します。規格品であれば、お問い合わせから 3 日以内の納品を実現しています。部品も国産にこだわるのは、1 秒でも早いメンテナンス対応を実現するためです。問い合わせやクレームを受けたら、即座に伺います。言葉だけの「お客さま第一主義」に、私たちは溺れません。行動で誠意を示し、行動力で信頼を勝ち取るのです。また、採用においても、私が、必ず全員を面接します。佐藤真空で働く人間に何より求めるのは、「技術への探求心」です。飾られた履歴書のプロフィールからでは、その人の本質は見えてきません。目と目を合わせ、“素の言葉”に耳を傾けることで、初めて、その人の本質に向き合える。本心から語られる言葉を受け取り、将来を共に創造できる仲間と出会いたいのです。現在、ポンプ・装置はのべ 3000 社以上のお客さまとお取引があり、その中で、100 社以上のお客さまと 50 年以上のお付合いがあります。リピート率も 70%を超えています。

この実績を残せたのも、一人ひとりがひたむきに努力を重ね、行動力と技術力で、「お客さま第一主義」を実現してきたからに他ならないと考えています。

VISION

世界でただ一つのブランドで、勝負する。

この分野では、世界トップレベルの技術を持っている。この分野なら、右に出る者はいない。企業規模は大きくはなくても、特定のカテゴリーにおいて圧倒的な強さを持ち、唯一無二のブランドを持っている。そんなヨーロッパ型の経営スタイルこそ、私たちの目指す姿です。ものづくりへの飽くなき挑戦心を力に、常に高みを目指してきた私たちは、これからも、技術で人々を魅了し、技術で心を沸かせていきます。中・小型のベルト駆動型真空ポンプの分野では、国内トップシェアを獲得。平成 17 年に完成した油回転直結型真空ポンプ『ラムダシリーズ』は、「中・小型真空ポンプのトップブランド」への挑戦でもあります。また、装置では、真空乾燥や真空熱処理、真空成膜を、佐藤真空にしかできない技術を駆使し、ユーザーニーズにマッチした製品に育て上げていきます。数年前、佐藤真空の将来ビジョンにふさわしい大型用地が都内に見つかり、千載一遇のチャンスと考えた私は、工場移転の計画を進めました。しかし、多くの従業員から、通勤時間が長くなるなどの悩みを訴えられ、考え抜いた末、計画は白紙に戻したのです。社長である私の考えだけを優先するのではなく、従業員たちの想いを受け止めることで結束を固め、突き進んできた道を邁進し続けようと決意したのです。規模や知名度ではなく、どこまでも技術を追い求め、世界でただ一つのブランドで勝負し続ける。それこそが、80 年以上の歴史の中で培ってきた、私たち佐藤真空の誇りなのです。

代表取締役社長

佐藤紀一　Norikazu Sato

生年月日：昭和 29 年 2 月 11 日

出身地：東京都品川区

血液型：0 型

創業者の佐藤勇助氏は祖父。日本大学経済学部を卒業後、科学機器の商社で 5 年間営業職を経験し、その後、佐藤真空に入社。平成 3 年、代表取締役に就任し、平成 22 年、代表就任 20 年目を迎えた。学生時代から音楽が好きで、ビートルズのコピーバンドやロックバンドのメンバーとして活躍。卒業後は、音楽の道に進むことも考えたほど。現在も、自作の楽曲をライブハウスで演奏するなど、オフは音楽に情熱を注ぐ。『仕事・家庭・自己の均等なバランスが幸せを生む』というのが持論。

第２章　経営理念

PHIL には「お客様の生の声を聞きそれを具現化する」という意味が込められています。

PHIL は、ディズニー映画「ヘラクレス」に登場する人物の名前でもあります。映画の中で、PHIL は、ヘラクレスを「英雄に育てるトレーナー」というキャスティングです。私たちも、新たな挑戦をしていく開発型真空機器メーカーとして、８０余年脈々と培ってきた技術を根幹に未来創造し、ユーザー様に貢献し、ユーザー様に感動して頂けるような製品とサービスをご提供できるメーカーになりたいという思いをこの PHIL というブランド名に込めました。

PHIL は“PHILOSOPHY”であり、私たちの企業理念を伝えるブランド名です。

佐藤真空は、「性能・技術・デザイン・バリエーション・サービスからなるトータル品質を、環境と安全をコアにコーディネイトする」“モノづくり”を志向し、実践哲学としています。PHIL ブランドは、“クリーンな真空を生む技術力”をモットーに、ユーザー様の課題に対し、最良・最適なご提案をする 真空プランナーでありたいと願っています。PHIL 佐藤真空が求めつづけているもの……それは「究極のクオリティ」です。

徹底的に品質を管理し、地球環境にやさしく、しかもお客様のあらゆるビジネスフィールドにもお応えできる真空機器総合メーカーが PHIL 佐藤真空です。

佐藤真空では、80 年にわたり真空総合メーカーとして、常にユーザーの立場から研究開発を進めてまいりました。佐藤真空の「お客様第一主義」を原点とした企業活動は、その PHILOSOPHY の経営理念に基づき真空技術のもつ無限の可能性を追求し、ユーザーニーズにマッチした製品をご提供することが、PHIL 佐藤真空の使命であると考えております。

基本方針

①世界一の製品づくりを目指し、新製品の研究開発や現行製品の改良・改善に努め、お客様の利益創造と感動を与えることができる企業を目指します。

②社員全員が創造性を発揮し、自らの仕事に責任を持ち、自分の生きがいと夢を実現できる企業を目指します。

③最先端技術産業であることに誇りを持ち、成長意欲と前向きな発想をしつづける企業を目指します。

「歴史を支えた技術が、未来を創ってきた。」

２０１２年、創業８０周年を迎えたことを契機に、「追い続け、向き合い続けた８０年」の歴史を小冊子**「ＰＲＩＤＥ」**として纏めました。

私たちの歴史、それは誰よりも力強く、たくましい「誇り」を手に入れてきた歩みです。

第３章　事業概要

佐藤真空は、お客様のあらゆるビジネスフィールドにお応えできる真空機器総合メーカーです。歩みは昭和７年（1932 年）に始まり、今なお、踏みしめる一歩一歩に、強く力を込める。理想の真空技術を追い求め、そこに近づこうと、果敢に挑み、ひたむきな努力で乗り越え、結果と成果を積み重ねてきました。

８０年前の挑戦心が、今の佐藤真空の礎になり、８０年前の志が、今の佐藤真空の誇りを生みました。８０年の伝統の中で脈々と培ってきた技術へのプライド。私たちは、そのプライドを胸に、新たな挑戦を続けています。

PHIL 佐藤真空の主力製品

真空ポンプ

ベルト駆動式油回転真空ポンプ

（６０年以上製造を続ける基幹製品）

直結型油回転真空ポンプ

（使い易さを極めた新世代の真空ポンプ）

真空装置

真空乾燥装置

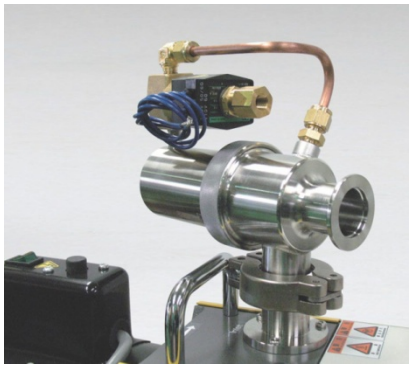
（最高温度３５０℃の真空乾燥装置）

小型ＣＶＤ装置

（研究に適した管状炉式のＣＶＤ装置）

豊富な製品ラインナップ

装置やポンプだけでなく、周辺機器のバリエーションが豊富なことも私たちの大きな武器です。お客様のあらゆる課題への対応と、ソリューションを可能にします。



特殊自動リーク弁

（オイルの逆流を防止）

特殊ＮＷ配管部品

（規格の違う配管を繋ぐオンリーワン部品）

油水分離型オイルクリーナー

（水分吸引用途の強い味方）

パルミル真空計

（低真空領域測定に抜群の精度を誇る）

コールドトラップ

（凝縮性ガス混入を防ぐ）

グローブ BOX 付真空乾燥装置

（ワークへの水分吸着を防ぎつつ真空処理を可能に）

第４章　当社を支える知的資産

（１）８０余年の歴史

真空技術は、日本産業の基軸を支える重要な技術です。佐藤真空はその真空技術の基盤を支えている企業です。

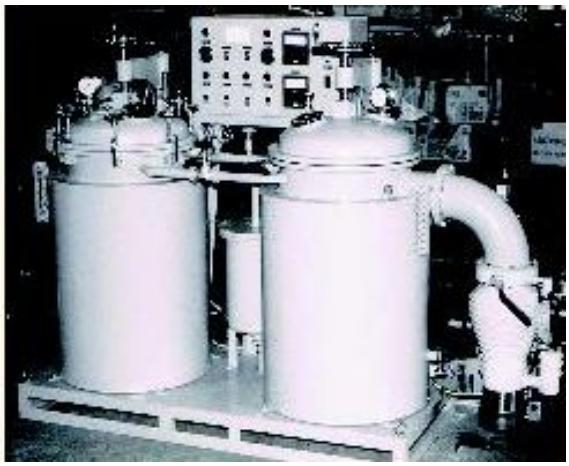
当社製品が、昭和７年の創業より長年に渡り多くのユーザー様にご採用頂いていますのは、引き継がれている技術のみならず、日々の積み重ねによる技術発展があるからこそ、だと自負しています。

真空という基幹技術を、今後も伝承と発展をしながら成長をして行く、それが佐藤真空です。

【歴史を支えた製品群】

５０Ｌゲーテ型真空ポンプ

佐藤真空の歴史は、この機器から始まった
60 年前の製品、ユーザー様でまだ現役で稼働中



真空含浸装置

真空技術の可能性を広げた昭和 30 年代看板商品

多層膜蒸着装置

佐藤真空の挑戦心はこの装置に結実している

真空乾燥装置

技術者たちの失われない探究心が生んだ,40 年前から現在まで続く代表作

（２）“モノづくり”へのこだわり

１．真空ポンプの製造過程では各部品の精度が非常に重要です。使用する部品によっては0.001ｍｍの精度が必要となり、機械加工もさることながら、それら精密部品の組立調整も真剣勝負です。

これはある意味、工業製品の製造ではなく、芸術品の製作です。勿論、完成品は、全台数試験をして、厳しい社内基準を少しでも満たさない物は決して出荷致しません。

モノづくりと云うのは非常に辛いもので、妥協を許さない「自己への挑戦」です。

２．新品の製作ばかりでは有りません。誠実なメーカーにとって、アフターサービスは更に重要です。真空ポンプの修理を例にとりますと、技術の伝承は、勤続５８年で日本真空工業会より第一回技能功労賞を受け、真空業界では知らない者がいない“太刀掛”から、その卓越した技術と正確さで抜擢された、真空業界のサービス部門では珍しい女性技術員の“大川”を始めとする技術員全員に脈々と引き継がれております。

第一回技能功労賞受賞の“太刀掛”

“大川”の作業風景

（３）全国展開の販売ネットワーク

創立８０余年の歴史は、総計２，０００社以上のユーザー様とのお取引実績、とりわけ、１００社以上のユーザー様との「５０年以上のお取引の継続」となって表れています。

これは、当社のかけがえのない財産であり、この財産を単に継承するのみではなく、よりユーザー様にご満足を重ねて頂くことにより、更に、ユーザー様の数を増やしていく努力を、全社員一丸となって行っています。

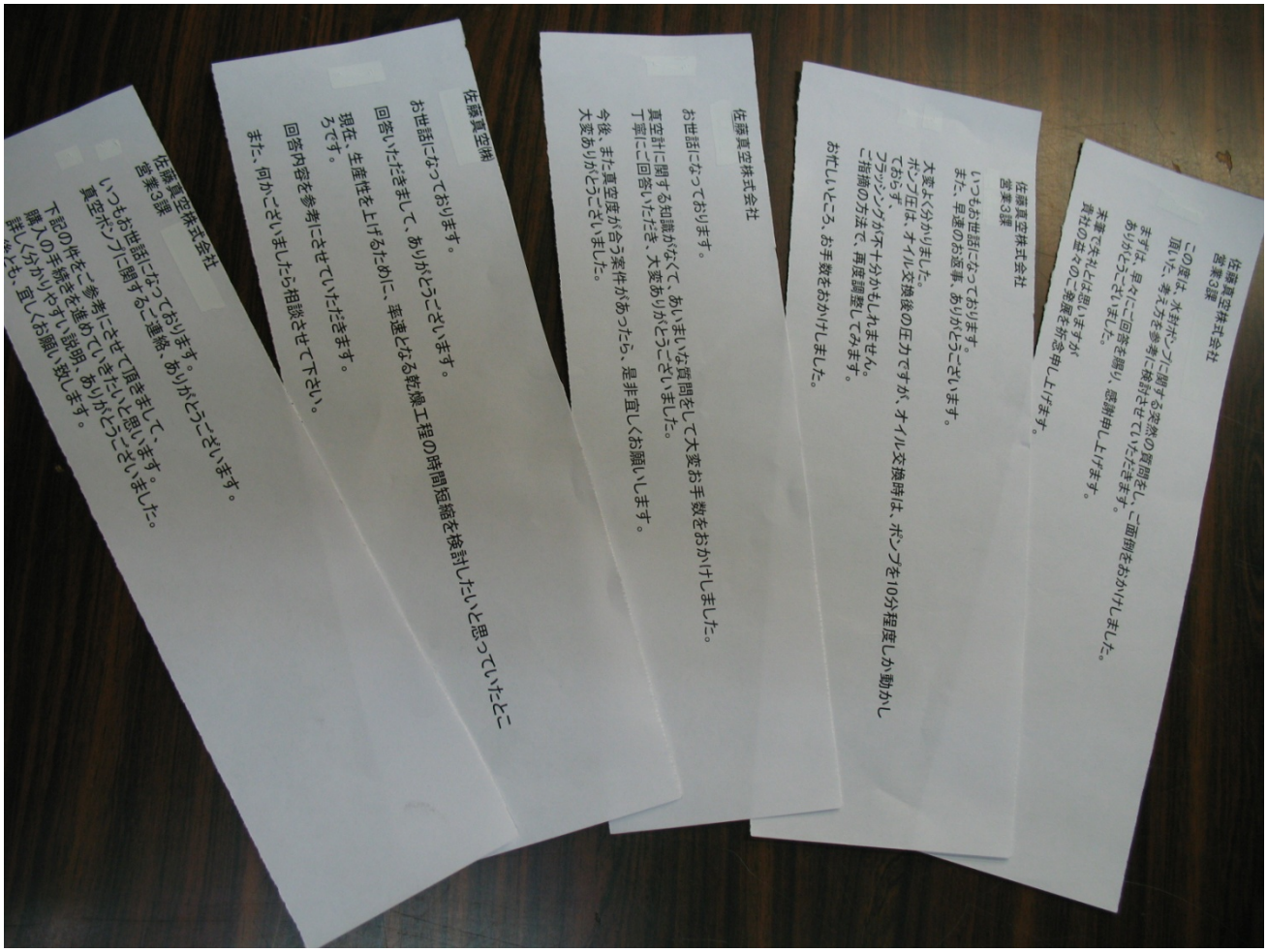
当社の営業拠点は、埼玉（本社/工場）と大阪（営業所）にあり、当社製品は、全国の工具系商社様及び理化学機器系商社様（合計約２，５００拠点）でお取扱い頂いておりますので、ユーザー様は、スムーズにご購入頂けます。

（４）“ユーザー様のため”をモットーとした提案力

営業マン全員が、ユーザー様の必要とされる物やお困りの内容をお聞きし、ベスト / ベターの提案をしています。“ユーザー様のため”をモットーに、お問い合わせに対して迅速丁寧にお答えしています。

ただ単に当社製品のＰ.Ｒ.をするだけではなく、トータル真空プランナーとして、末永く、佐藤真空のファンとなって頂くように心がけています。

【ユーザー様の声】



（５）オーダーメイド設計を低価格で提供できる製品力

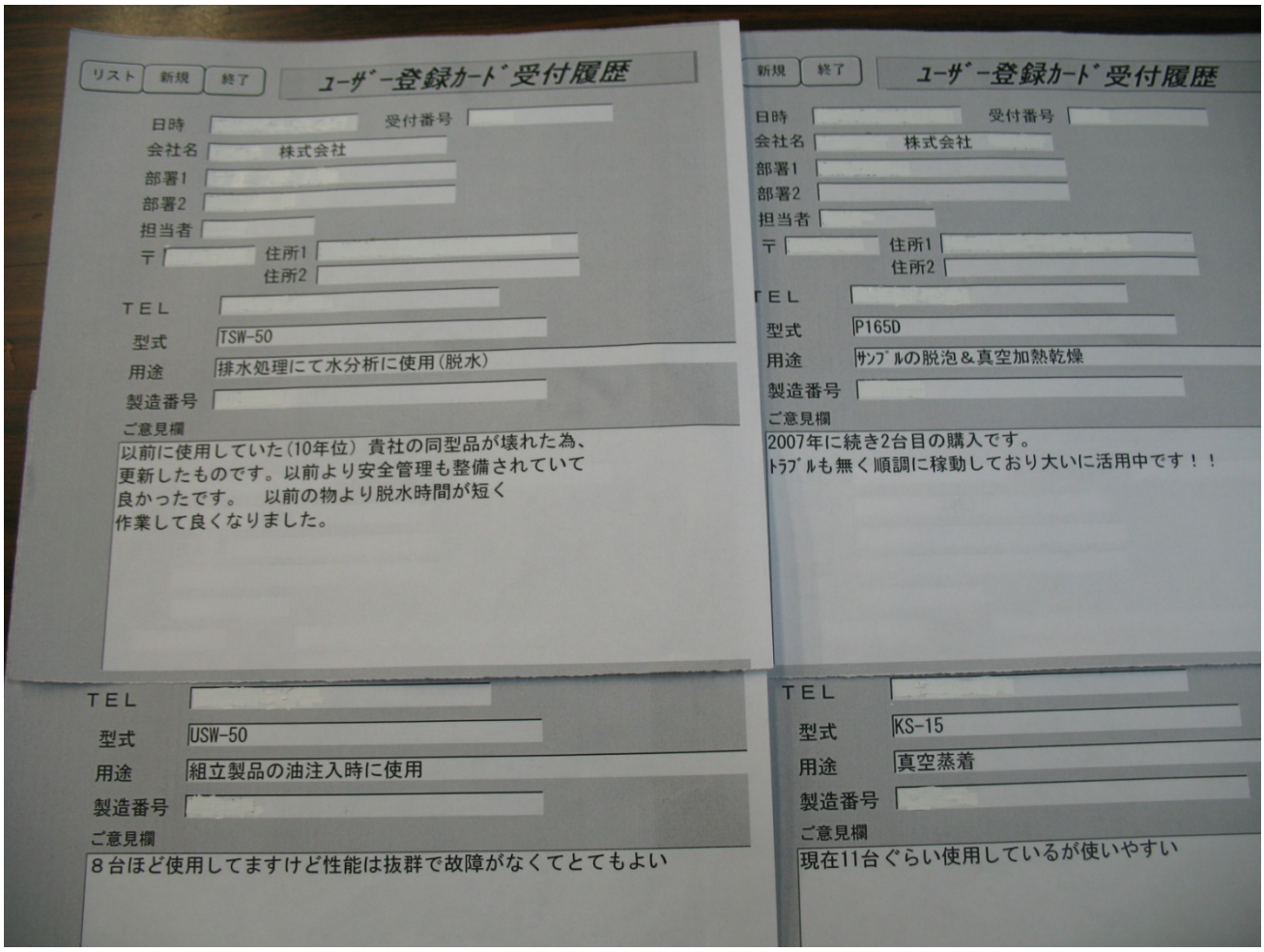
真空ポンプは、国内メーカーに限らず、海外メーカーの製品から当社製品に切り替えて頂いているユーザー様が増えてきています。営業マンの提案力だけではなく、やはり歴史ある当社製品の信頼性が証明されていることは、云うまでも有りません。

更に、ヨーロッパスタイルの直結型油回転真空ポンプ“Λ”シリーズのように、信頼性にデザインの良さを加味した新製品もご好評を頂いています。

真空装置は、ユーザー様のニーズに応じてオーダーメイド設計した装置を、低価格で提供します。一方、規格品化されている研究開発用装置は、新製品を続々と発売し、ご注文が順調に増えています。

佐藤真空は、常にユーザー様の声を反映して設計しますので、結果として、製品へのご満足度が高く、多くのユーザー様からお褒めの言葉をいただいております。

【ユーザー様の声】



リスト　新規　終了

ユーザー登録カード受付履歴

日時　受付番号
会社名　株式会社
部署1
部署2
担当者
〒　住所1
住所2
TEL
型式　TSW-50
用途　排水処理にて水分析に使用(脱水)
製造番号
ご意見欄
以前に使用していた(10年位) 貴社の同型品が壊れた為、
更新したものです。以前より安全管理も整備されていて
良かったです。　以前の物より脱水時間が短く
作業して良くなりました。

新規　終了

ユーザー登録カード受付履歴

日時　受付番号
会社名　株式会社
部署1
部署2
担当者
〒　住所1
住所2
TEL
型式　P165D
用途　ｻﾝﾌﾟﾙの脱泡＆真空加熱乾燥
製造番号
ご意見欄
2007年に続き2台目の購入です。
ﾄﾗﾌﾞﾙも無く順調に稼動しており大いに活用中です！！

TEL
型式　USW-50
用途　組立製品の油注入時に使用
製造番号
ご意見欄
８台ほど使用してますけど性能は抜群で故障がなくてとてもよい

TEL
型式　KS-15
用途　真空蒸着
製造番号
ご意見欄
現在11台ぐらい使用しているが使いやすい

（６）７０％を超すリピート率

日本国内最大の真空機器メーカー様と比較しますと、会社の規模は小さく、生産台数も少ないですが、リピート率は非常に高く（７０％強)、一度お使いいただくと、ファンになって頂けることが多いです。

例を挙げますと、

１）某大手製薬メーカーのご担当様より、“大学のゼミで当社ポンプを使用していた。その使い勝手の良さと頑丈さが忘れられない。今回、購入窓口になったので、是非とも佐藤真空のポンプと乾燥機を購入したい“とご連絡を頂き、即、ご購入の運びとなりました。

２）某大手メンテナンス会社の現場ご担当様より、“佐藤真空のポンプは他社製と比較して、堅牢で壊れにくい“とご好評を頂き、その評価が全社に広がり、その後、順調に受注数が増えています。

「もう他社の物は使いたくない」と各支店のご担当様から嬉しいお話を頂いています。

３）ヨーロッパ、中近東、アジアと世界各国に輸出している、某真空装置メーカー様は、その真空ポンプには、当社製の「ベルト駆動式油回転真空ポンプ」のみを採用しています。

同社は、その分野では、世界トップの真空装置メーカーで、世界中の真空ポンプを熟知されています。同社が佐藤真空製のみを搭載されることは、当社の真空ポンプへの信頼の証です。

円高／ドル&ユーロ安が定着し、日本製品は、価格競争では厳しい状況ですが、日本製品の性能及び耐久性の良さ、しいては佐藤真空の製品の優秀さを如実に物語っています。

（７）商標登録（PHIL にこめた思い）

当社の理念で有る“**ＰＨＩＬ**”は、商標登録をしています。

某展示会で、海外ディーラーとユーザーの各ご担当が、やっと“**ＰＨＩＬ**”製品を見つけた、と喜んで当社ブースに来られたことが有りました。

“**ＰＨＩＬ**”はインパクトの有る、当社の顔となっています。

佐藤真空の知的資産（まとめ）

（１）８０余年の歴史：長年、ユーザー様にご愛顧いただいていることが信頼の証です。

（２）“モノづくり”へのこだわり：0.001ｍｍへの精度にこだわり、全数出荷検査をしています。

（３）全国展開の販売ネットワーク（国内 2,500 拠点、海外 10 拠点）を有します。

（４）“ユーザー様のため”をモットーとした提案力（第５章ご参照）に自信があります。

（５）オーダーメイド設計を低価格で提供できる製品力に誇りを持っています。

（６）７０％を超すリピート率は、佐藤真空への信頼の証です。

（７）商標登録（PHIL にこめた思い）

第５章　今後の事業戦略

現在真空技術は、宇宙開発・エレクトロニクス・エネルギー・理化学・電気工業・医薬・食品・光学・自動車・金属・鉄鋼等、産業分野全般へと大きな広がりを見せております。これらの技術は、産業界のあらゆる分野の研究開発から生産プロセスまで、すべての段階において多大な貢献を果たしており、その成果は私達の生活の隅々にまで浸透しています。

佐藤真空では、80 年にわたり真空機器メーカーとして技術革新を続け、真空ポンプ、真空計測器、各種真空部品を生みだすコンポーネンツ技術、そしてその真空技術を利用した真空装置群、真空乾燥、真空ベーキング、真空熱処理、真空蒸着、真空成膜、超高真空排気、真空注入、真空含浸等真空総合メーカーとして、常にユーザーの立場から研究開発を進めてまいりました。これからも PHILosophy の経営理念に基づき真空技術のもつ無限の可能性を追求し、「お客様第一主義」を原点として、ユーザーニーズにマッチした製品をご提供して参ります。今後の事業戦略の概要は以下の通りです。

（１）研究開発分野を深堀

①新エネルギー・デバイス分野の研究開発機器の開発。熱ＣＶＤ→薄膜

昨年発売したグラフェン研究開発用熱ＣＶＤ装置に続き、薄膜研究開発用小型装置等の研究開発向小型装置及びコンポーネントの開発を進めます。

②高付加価値コンポーネント周辺機器の開発。

新素材・医薬品の研究所で使用頂ける、オンリーワン商品を開発します。

③ 小型ドライ真空ポンプの開発。

ドライベーン式の改良、及び新しい機構で新しいニーズに応えるべくチャレンジし続けます。

（２）グローバル市場への展開

①情報発信

・海外展示会への出展

2012 年は、台北国際電子産業科技展(台湾)、analytica China(上海)の展示会に出展しました。

今後も海外で開催される展示会に積極的に出展し、情報発信を継続します。

・ホームページの英文併記

カタログは、既に英文併記ですが、今後は、ホームページも英文サイト構築を進めます。

②海外ネットワークの構築

・販売代理店、メンテナンスパートナーの開拓

国内販売店が、日系企業の海外工場に進出に伴い海外展開が相次いでおり、歩調を合わせつつ、販売ルートとメンテナンスのネットワークの構築を進めます。

※現状：韓国：２、台湾：２、中国：３、タイ：２、マレーシア：１、

（３）ソリューションビジネスの展開

ホームページの真空 NAVI ネットワーク内のソリューションサイトを活用し、ユーザーニーズを吸い上げ、販売拡大に結びつけます。

第６章　情報発信の取り組み

佐藤真空は、お客様のニーズを営業マンと技術者が直接聞き取る営業スタイルを基本としつつも、「自社製品を広く認知していただき、より多くのお客様のお役に立ちたい！」という熱い思いを伝える手段として、様々な情報発信を積極的に行っております。

（１）「真空ベーシックガイド」の制作

真空総合メーカーとしての、製品ラインナップをご覧いただける「総合カタログ」、個々の製品の特長を分かり易く解説した「単品カタログ」に加え、真空技術の価値をより深くお伝えするために“真空技術”を解説した「真空ベーシックガイド」等を制作し、展示会・講習会等で無償配布しております。

お陰様で「真空ベーシックガイド」は真空技術の入門書として、皆様から“大変分かりやすくまとまっている”等のお声・ご感想を頂いております。

（２）国内外の展示会への継続的出展

JASIS(旧分析/科学機器展)、真空展には、長年に渡り毎回出展を継続しております。
2012 年は、はじめて海外の展示会に出展しました。今後は、グローバル化を、さらに推進します。

JASIS2012　平成 24 年 9 月 5 日～7 日
会場：幕張メッセ

真空展　平成 24 年 10 月 17 日～19 日
会場：東京ビッグサイト

台北国際電子産業科技展　平成 24 年 10 月 9 日～12 日
会場：台北世界貿易ｾﾝﾀｰ南港博覧館

analytica China　平成 24 年 10 月 16 日～18 日
会場：上海新国際見本市会場

（３）お客様視点に立ったホームページの制作

http://www.satovac.co.jp/

ホームページを立ち上げるにあたり“どうすればお客様にとって使いやすいものになるか”と考えて作成いたしましたところ、幸いにも、大変多くのお問い合わせをいただいております。

また、お問い合わせから受注に至る確率は約５０％強と高い確率となっております。

さらに、新しく、平成 24 年 9 月に副サイトとして、お客様の課題に対し最良・最適な問題解決法を提案するサービス/ソリューションサイト（真空 NAVI）を立ち上げ、お問合せから一気に受注に結び付けることができようになりました。

（４）その他の情報提供の取り組み

佐藤真空製品をお取扱いいただく商社様発行のカタログへの情報掲載や業界雑誌への宣伝広告掲載など、色々な媒体を使いユーザーの皆様の研究開発や製品製造に少しでもお役に立てるよう情報発信をしております。

理化学ルートのカタログ

産業機器ルートのカタログ

第７章　会社概要と沿革

会社概要

会　社　名	佐藤真空株式会社
商　　標	PHIL
本　　社	東京都品川区大井 5 丁目 1 番 27 号
営業所／工場	〒354-0041　埼玉県入間郡三芳町藤久保 1036 番地 電話：049-258-1116　Fax：049-258-1117
大 阪 営業所	〒579-8013　大阪府東大阪市西石切町 3 丁目 4 番 13 号 電話：072-981-7241　Fax：072-981-8831
事 業 内 容	真空ポンプ・真空計・真空装置・製造及び販売
創　　立	昭和 7 年 2 月（1932.2）
資　本　金	5,000 万円
従 業 員 数	50 名
加 入 団体名	一般社団法人 日本科学機器協会 一般社団法人 日本真空学会 日本真空工業会 東京商工会議所

沿　　革

昭和 7 年（1932）２月	佐藤製作所を東京都品川区大井 5 丁目 1 番 27 号に 佐藤勇助設立創業　日本光学工業株式会社（現 ニコン）の航空機器部品・精密部品製作を開始
昭和 22 年（1947）２月	佐藤産業有限会社を同所に法人組織に改組　真空ポンプ製造及び販売を開始
昭和 35 年（1960）10 月	佐藤真空機械工業株式会社に改組設立　代表取締役　佐藤 光義
昭和 46 年（1971）７月	埼玉県新座市野火止 2 丁目 2 番 7 号に工場新設移転
昭和 50 年（1975）１月	代表取締役に　民家 正純　就任
昭和 51 年（1976）９月	光学研究所併設
昭和 58 年（1983）１月	埼玉県入間郡三芳町藤久保 1036 番地に新工場建設移転
平成 1 年（1989）３月	東大阪市西石切町 3 丁目 4 番 13 号に大阪営業所及びサービスセンター開設
平成 3 年（1991）４月	佐藤真空機械工業株式会社　代表取締役に　佐藤 紀一　就任
平成 10 年（1998）９月	佐藤真空株式会社に社名変更　商標を PHIL とする
平成 24 年（2012）２月	創立 80 周年を迎え、コンセプトブック：「ＰＲＩＤＥ」を発刊
平成 24 年（2012）９月	ホームページの副サイト：「真空ＮＡＶＩ」を開設。 真空ハンドブック：「真空ベーシックガイド」を発刊

第８章　あとがき

＜知的資産経営報告書とは＞

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。

したがって、「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、即ち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係人）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形でわかりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。

経済産業省から平成 17 年 10 月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成しております。

＜注意事項＞

本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しております。そのため、将来にわたり当社の取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。

よって、本報告書に記載した内容や数値などを、当社が将来にわたって保証するものではないことを、十分にご了承願います。

＜著者＞

佐藤真空株式会社　　代表取締役社長　佐藤　紀一
〒354-0041　　埼玉県入間郡三芳町藤久保１０３６

この報告書についてのお問い合わせは
佐藤真空株式会社　　営業部　蜂谷　裕一までお願いします。
hachiya@satovac.co.jp

＜作成支援・監修専門家＞

本知的資産経営報告書の作成にあたっては、本書記載内容につき、その客観性を維持・向上させる趣旨から、次に掲げる専門家のご支援・ご監修を賜りました。

あなたの経営戦略秘書　糟谷　豊（中小企業診断士、行政書士、知的財産管理技能士）
ふるき行政書士事務所　古木　正和（行政書士）

以上